平成21年度 第1回 石狩市情報公開・個人情報保護審査会議事録

日時 平成21年5月12日(火)午後6時00分～6時27分

場所 市役所3階 庁議室

出席者

[委員] 向田直範会長、矢吹徹雄副会長、酒井哲夫、植松美由紀、村上岑子

[事務局] 総務部長 川又和雄、総務部情報推進課長 椿原功、
総務部情報推進課文書・統計担当主査 扇武男、同主任奥山直樹

傍聴者 0名

案件

【報告】

平成20年度石狩市情報公開・個人情報保護制度実施状況報告

配布資料

平成20年度における石狩市情報公開・個人情報保護制度の実施状況

開会

【椿原課長】 皆様、一日のお仕事でお疲れのところご苦労様です。

開会の時間となりましたので、ただいまより、平成21年度第1回石狩市情報公開・個人情報保護審査会を開催いたします。

はじめに、向田会長よりご挨拶申し上げます。

【向田会長】 皆さんこんばんは。お忙しいところありがとうございます。今回の予定では決議事項がありませんで、報告事項だけでございますので時間も短時間で終わると思いますがよろしく願いいたします。

○日程説明

【向田会長】 それでは、本日の予定等について事務局から説明願います。

【椿原課長】 本日は報告事項として、平成20年度における情報公開・個人情報保護制度の実施状況を私から説明いたします。以上、よろしく願いいたします。

案件

【向田会長】 それでは、報告事項についてお願いいたします

【椿原課長】 私から報告事項として「平成20年度における情報公開・個人情報保護制度の実施状況について」を報告いたします。

添付されております情報公開・個人情報保護制度の実施状況をご覧ください。

まずは情報公開制度でございますが、平成20年度は一つの申請に対し決定内容が複数件となった場合がございますので、決定内容の件数をとりまして、全体で31件このうち全部開示が12件、個人情報・市政運営情報等を伏せての一部開示が10件、該当文書が存在しない不存在が8件、存在応答拒否が1件でございます。

つづきまして、個人情報保護制度でございますが、情報公開制度と同様に決定内容の件数をとりまして、全体で8件、このうち個人情報を伏せての一部開示が1件、

該当文書が存在しない不存在が7件でございます。

なお、申請番号25番につきましては、電子請求でなされたものでありますが、申請内容が公文書の公開に係る内容ではないことから受取拒否の決定をしたところです。

全体の件数としましては、市長部局28件、教育委員会11件の計39件で、その他に受取拒否が1件となっております。

以上、平成20年度における情報公開・個人情報保護制度の実施状況のご報告とさせていただきます。

【向田会長】すでに事前に目を通されているかとは思いますが、何か質問ございましたら、お願いします。

【村上委員】申請番号25番について、受取拒否とのことですが、具体的にはどのような内容なのですか。

【椿原課長】今回電子申請システムで行われたものですが、内容的に開示請求ではなくて、教育委員会への苦情が書かれたものでしたので、申請者本人に確認をし、教育委員会へ苦情案件として報告しております。もっと簡単に申しますと開示請求のシステムを使って苦情を記載してきたということで、それで苦情処理を行ったということです。

【村上委員】それは前に整理番号25番あたりから連続的にいろいろ開示請求を求めている部分がありますよね。それと関連のあることなのですか。

【椿原課長】この件とは無関係ではないです。

【村上委員】私もそう読み取れましたけれども、いろいろ調べてみたのですが25番のこととか書かれて無いかと、また前の整理番号18番とも関係があるのですか。

【椿原課長】複数回にわたっての開示で関係しているはずですよ。

【村上委員】整理番号18番と整理番号25番が関係あるのではと思いますが。

【椿原課長】まったく関係しないとは言えないです。

【村上委員】今年の1月あたりから、出来事はその前に何かがあったのだろうということで、これはなんだろうとの思いで先ほどの話がでた訳ですけど、全然私は何もわかっておりません。ですから何もわからない中で言いますが不存在という整理番号25番で回答している訳ですよ。不存在ということはまったくそれに該当する文書が無かったとのことですね。それで開示請求としてはそれでいいのかもしれないけれども、行政として受け止めたときに学校教育課のほうでこれは対応したと思うのですが不存在かもしれないけれどもというよりもこれを読んでいくと不存在ってありうるのかと思うような内容に思えたものですから、これは内部的に不存在と答えたとしても、その後の処置と言いますか事務的な計らいとして、教育委員会の仕事としては何か起きるのではないかと、これは開示請求とは関係があるとは思いますが、いわゆる情報公開制度といわゆる行政の仕事との関係から言えば大事な部分だと思えますから、この不存在と答えたことで終わらないのではない

かと思っています。本当に不存在だったのかどうかすごい疑問なのですよね。

【椿原課長】この場では本当に不存在でしたとしか我々の方ではお答えできません。

【向田会長】一連の話として学校事故か何かあったのですか。学校事故があって関連のいろいろな質問だとか苦情とかが出てきてそういうのが載っているということですね。

【椿原課長】その事実を確認したいというので開示請求がなされているという事実はございます。ただ個別審議案件になってしまいますのであまり深くは申し上げられません。

【村上委員】それで2月9日の結果として2月12日のいわゆる苦情案件ということになるか、そういうことも出てきたのかという流れが読み取れるのですが、それで情報公開制度から行き過ぎることなのかもしれないけれども、これが不存在と言い切れることなのか、制度としてはきちっとやって欲しいという異議申立てという制度もあるわけで、そういうことを教えていたのかどうか。

【椿原課長】その点につきましては、開示請求のご本人も重々承知でいらっしゃいます。また、今行っている公文書公開制度では、メモ、私文書につきましては公開の対象外となっており、私文書につきましては開示請求されても公開できないとの部分があるのと、本当に無い部分につきましては、公文書が無いので公開できないとの部分と二種類があったのかと推測されます。

【村上委員】もしも、これが現実にあったとしたら、教育委員会としては担当部署にきちっとした報告書を上げるという指示をするべきものではありませんよね。これは途中経過なのかもしれないですけれども、こういう情報公開の中でこういうことが出てくるということが、どういうふうにかつこういう問題を救えるのかと考えましたので。

【矢吹副会長】これは一連の文書で、申請番号8番整理番号9番これで一部開示している文書があって整理番号18,21,22,23,27,28につながっていく文書ですね。

【村上委員】気になるとしか言い様が無いですね。

【矢吹副会長】だいたい一つ請求があるとそれに連続して請求が出てくる、個人情報保護制度の方も一連の請求案件ですよ。

【向田会長】個人情報保護制度へ入っておりますが、整理番号8番は、これは一部開示しているのですね、不存在ではないのですね。

【椿原課長】整理番号8番については個人名が掲載されているのがあり開示したということですよ。

【村上委員】それで収まったのでしょうか。

【椿原課長】そういうことかどうかは定かではないのですが。

【矢吹副会長】載っていなかった人が不存在で、載っていた人が開示されたということでしょうか。

【村上委員】人が違うということですか。

【矢吹副会長】私はどうですかという聞き方ではないでしょうか。そしてこれが情報開示の申請番号 10 番の整理番号 11,12 番と申請番号 14 番の整理番号 14 番へ繋がっていくのですね。

【村上委員】市民の方がこうゆう制度がわかってきたという面もあるのでしょうかね。

【椿原課長】情報公開制度、個人情報保護制度の運用の仕方がわかってこられた方が出て来ている形ではあると思うのですが。

【村上委員】先ほど言った教育委員会の会議録があれば気になる人は自ら調べると、さらにまた、深く求めることも出てくるかもしれないし、すごく大事なことだなと思います。

【椿原課長】申請番号 28 番の整理番号 31 の部分、これも開示請求がされ一部開示されている部分がございます。

【村上委員】不存在の文書は、メモとか電話で話しをして、結果メモで残すというのは文書と見なさないということですか。

【向田会長】整理番号 23 番で言う学校日誌とかは学校で制度化していて記載しているものは公文書となりますが、この不存在とは文書はあるだろうけど、それはあくまでも個人的な文書ということではないでしょうか。事実はわかりませんが。

【村上委員】そういう段階のものだということなのですか。

【椿原課長】メモでも公文書として一緒に綴っている場合、例えば報告する書類と一緒にメモも添付して報告していましたという場合、そのメモは開示請求の時には公文書として取り扱われます。個人が仕事を進めていく上でメモをしていた場合は私文書として取り扱われますので公文書としての取扱いにはなりません。

【村上委員】不思議だなと思うのですが、こうゆう内容の部分が不存在というのは学校運営が成り立つのかと言う気にはなりませんが。

【酒井委員】公文書だから後で残さなければならぬものなので、お役所的な部分で言えば後々残してはいけないものに関しては口頭で指示して聞いた方は自分なりにメモして、その開示請求があった場合は公文書でないと答えることはありえると思います。

【矢吹副会長】タイトルだけこう書いてあるからこうなっているのであって、例えば申請番号 8 番で整理番号 9 番や 18 番は出来上がった文書があるわけで、それは一部開示しているが、その根拠となった書類は何かということではそれが公文書として残っていないのかあるいは個人的なメモなのかというふうにどンドンどンドン突っ込まれている部分ではないかと思いますが。

【椿原課長】事例から個人情報保護制度で教務手帳という教師の個人メモ的なものが開示の対象となるのかというものがありまして、これについては一般的に教職員個々の裁量で管理保管されている場合については個人のメモとして取り扱われて公文書ではないと言うような見解が一般的に用いられています。

【酒井委員】全員から集めて管理保管するとなるとそれは公文書となるということ

ですがこれはそうではないですからね。

【村上委員】開かれた行政というところからこういう情報公開という部分があるとすればこういうのを踏まえて、まあ文書を作るか作らないかという問題になってくるのでしょうか。

【酒井委員】逆に言えばお役所いじめで、嫌がらせ的なことはありえないことではないと思いますが。極端に言うと

【村上委員】ちょっとこじれているからそういう部分はありますね。

【酒井委員】善意を持ってとりくめば、お役所だからということでお役所の考えで、もう無いからと言う形ではなく、やることはやるけれども、見せるものは見せるという部分はあると思います。あくまでも見るからに悪意を持ってきている部分はありえますので。

【村上委員】親の気持ちとしてはという部分がありますから、結構いろんな問題では。それに至る前の段階のそこが大事なんだろうなと思います。

【酒井委員】本当はそこに行く部分でいままでの全部そこまで行かない部分で情報公開で見せるものは見せますよ、という形でいくのはいいことなのですが、こんどわかってくと悪用って言うかあれもどうだなど、いまみたいにメモはどうだ何でもかんでも見せるということになってくると困った問題になってくるし、そして細かく言うと、大前提が善意に基づくものであればいいのだけど、じゃ公文書となるものがどうゆうものかと細かくしていけば例えばネクタイの色がどうのと決めていかなければならないいやな世の中になる部位が出てくるのではないか。住民の方は自分の思うような、望むような答えが欲しいと思うでしょうが。誰でもそうだと思いますが。

【椿原課長】窓口で市民の方と話しをしたときに、聞いた内容を口頭で指示をして仕事をするという場合がございますので、必ずしも100パーセント文書ですべて仕事が回っていく訳ではないとの話しをしております。

【酒井委員】だから最後に苦情の分野に回ってというのはお役所の方は苦労していると思いますよ。こういう法律が無いときは役所が都合が悪いところの書類は見せないというのは根本的に違うのではないかと思いますよ。ただ、一般の市民の請求があってどうどうと出てくることは非常にいいことだと思います。

【村上委員】しばらく時間のかかるものみたいですね。異議申立てをしても無いものは出ないという形になるかもしれないし、異議申立ての主旨は十分わかっていたいてそういう形になっているのであればそれでいいのかなと思いますが、結局苦情みたいなことで処理されていて、これは本人の思いとは違うのですよね。おそらく。こういう形にされるということ自体が。

【椿原課長】その件につきましては、ご本人様にもお話しご納得されておりますので。別な形でご回答する手続きを取っております。

【村上委員】そうですね。こういう形では無理があるのかも知れないですね。

【向田会長】他にご質問等ございますか。無いようであれば事務局から何かありませんか。

【椿原課長】今後の地域対策の予算の付き方によりましては、事務の効率化とか電算関係での情報の目的外利用の審議が発生する可能性がございますので、その時にはまたお集まりいただかなければならなりません。また別途ご連絡いたしたいと思います。

閉会

【向田会長】今日の予定していた案件は、以上のとおりです。ありがとうございました。

これをもちまして、平成 21 年度第 1 回石狩市情報公開・個人情報保護審査会を終了いたします。

議事録確定 平成 21 年 7 月 8 日

石狩市情報公開・個人情報保護審査会

会 長 向 田 直 範